

in 東京

今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは
ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー

開催報告書

2023年10月1日(日)12:30-17:00

【会場】：情報セキュリティ大学院大学東京オフィス

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催

こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2023年11月7日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2023in ●● 開催概要.....	5
4. 主担当.....	8
5. 高校生 ICT Conference 2023 サミット.....	9
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	9
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	9

1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2023 テーマ： 今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー
主催：	高校生 ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会
共催：	こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発総研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、グリー株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>新型コロナウイルスで揺れ動いた社会は、ようやく各種の行動制限はなくなりましたが、未だ感染リスクは存在するため、本来密であるはずの高校生の生活環境においても、人と人が直に接するリスクを未だ抱えている状況です。</p> <p>一方、高校生の ICT 利用環境に目を向けると、スマホに加え、一人一台学習端末の導入（いわゆる GIGA スクール構想）により、機能のすぐれたタブレットやパソコンの個人専有が普及しました。さらに自然言語による生成 AI 技術等の目覚まし</p>

	<p>い進歩と実用化に向けた取組により、多様なシーンで AI 技術が利用されるようになりました。こうした社会環境の変化や情報技術の進歩を背景としたデジタル社会を迎え、今後、益々利用者自身の情報リテラシーや情報モラルが求められるようになってきています。</p> <p>ICT の健全な利用により利用者のデジタルウェルビーイングな状況を維持する社会環境の構築に向けた取り組みは我が国が目指しているところであり、それを支えるのが利用者の情報技術を利用する上での行動規範であるデジタルシティズンシップです。これから迎えるデジタル社会においてその中核をなすであろう現在の高校生が、現在そして将来果たすべき役割とは何か。多様な ICT 機器やサービス、新たに開発される技術の活用において、ICT 利用の最先端を走る高校生が、自身の役割について、斬新な指針とその実現方法を議論し、提言する。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まりました。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められています。</p> <p>更に、国は 2021 年 9 月 1 日にデジタル庁を新設し、2022 年 6 月 7 日に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において”誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化”を目指しています。高校生を取り巻く環境では、2022 年度より「情報」の授業が必修化されました。また、2025 年度からは共通テストで「情報」を加えた 6 教科 8 科目を課すことが決まっています。このように、ICT の利活用はわが国発展のための基盤と位置付けられており、これからのデジタル社会で中核を担う高校生による熱い議論を目指します。</p>
<p>開催の概要：</p>	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表 (プレゼン) (2) 質疑応答・意見交換</p>
<p>各開催地 募集人員等：</p>	<p>募集参加生徒 30 名 (各開催地により変動あり) 募集見学者各回 30 名 (各開催地により変動あり)</p>
<p>参加参観方法：</p>	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
<p>高校生 ICT Conference 実行委員会：</p>	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長) <p>【コアメンバー】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> • 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） • 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） • 小城 英子（聖心女子大学） • 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 〒104-0041 東京都中央区新富二丁目 4 番 5 号 ニュー新富ビル 4 階 TEL: 03-6280-4901</p>
--	--

2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	9 月 16 日	u-cala
札幌	10 月 1 日	株式会社クレスコ 札幌事業所
帯広	10 月 1 日	とちちプラザ
茨城	8 月 23 日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	10 月 1 日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8 月 17 日	NCC 新潟コンピュータ専門学校
静岡	9 月 18 日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
愛知	9 月 24 日	大同大学大同高等学校
長野	10 月 14 日	オンライン
石川	9 月 18 日	金沢勤労者プラザ
大阪	9 月 17 日	私学会館
奈良	10 月 9 日	帝塚山大学（仮）
兵庫	9 月 9 日	兵庫県立姫路東高等学校
高知	9 月 10 日	高知県立伊野商業高等学校
福岡	9 月 2 日	福岡県千代合同庁舎
大分	7 月 29 日	ホルトホール大分会議室
長崎	8 月 19 日	オンライン
全国オンライン 1	8 月 7 日	オンライン
全国オンライン 2	10 月 8 日	オンライン

3. 高校生 ICT Conference 2023in 東京 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 43 名の参加者を得て、「今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは」ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【熟議】</p> <p>司会進行・主旨説明 実行委員長 米田謙三 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。今年は久しぶりのリアル開催ということになったのでリアルならではのアイスブレイクやポイント主旨などを説明してもらいました。 (サポート 大学生 矢野 莉央 様)</p> <p>開会の挨拶</p> <p>総務省 関東総合通信局 情報通信部長 佐藤 美幸 様 ICT 機器の利用拡大は重要なことであるが、一方ではトラブルや誹謗中傷事件などが発生している。ICT を安心安全に活用し、良い環境を作っていくことが求められている。新型コロナで社会生活は大きく変化したが、新型コロナ後も完全にはもとに戻らないだろう。今日のカンファレンスでは、デジタルを活用する能力であるデジタルシティズンシップ、活用することによるウェルビーイングな実生活がどうあるべきか議論して欲しいとご挨拶をいただきました。</p> <p>事業者による講演</p> <p>株式会社ディー・エヌ・エー 経営企画本部 パブリックリレーション部 小澤 恵利子 様 DeNA 社について紹介いただいた後、新型コロナを契機として一気に進んだリモートワーク等の ICT 化について自社でも活用を例にお話しいただいた。また、高校生が良く使うサービスについて、情報発信ツールの使用例を具体的に示して AI の発達で簡単便利に使えるようになったことについて説明をいただきました。最後に安心安全にサービスを提供するための取り組みについて、活用方法の他、次世代の IT 人材育成など具体的に講演いただきました。</p> <p>ファシリテーター・参加校紹介 および グループ分け 4つのグループにわかれてから、それぞれのグループのファシリテーターを務めるファシリテーターから本日の目標、アイスブレイク、自己紹介などを実施しました。</p> <p>第二部：熟議「今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー」</p>
----	---

リアル会場で4つのグループに分かれ OB/OG がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。まずは『目的と利用シーンから見た、いろいろな ICT 機器の役割』そして『安心安全な活用とは何か（個人情報、防災、防犯）』

『ICT の快適な社会的活用』というテーマで意見交換をしながら最終的に『高校生が社会に果たせる役割とは何か（行動、発信、影響力）』を Google スライドを活用しながら意見を整理分類しまとめて行きました。具体的な使い方については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。熟議の中で分からない事は、企業の方や先生方にも随時サポーターとして入っていただき、すばやく教えてくださいました。今回、ファシリテーターは OB/OG でしたが、事前にオンラインでのフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（研修を今年も隔週土曜日で実施しました）

今回の東京の熟議で大切にしたいポイント

『目的と利用シーンから見た、いろいろな ICT 機器の役割』

『安心安全な活用とは何か（個人情報、防災、防犯）』

『ICT の快適な社会的活用』

『高校生が社会に果たせる役割とは何か（行動、発信、影響力）』

（詳細は別紙「熟議録」をご参照ください）

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して 3 分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

参考：各班のポイント 4 班が代表グループに選ばれました。

【1 班】 主体性を持って、デジタル社会と向き合う

同世代！！

「デジタル社会との付き合い方」 ①身体的影響 ②精神的影響

デジタルシティズンシップ＝ワーク・ライフ・デジタル・バランスと定義

1, ワーク・ライフ・デジタル・バランスを保つ

2, カリキュラム 学校の授業内で

高校生が SNS 等デジタルとの付き合い方をディスカッション

【2 班】 happiness と well_being の違いとは

「私たちにとっての digitalwell_being を実現させるには」

デジタル活用のメリット デジタル活用のデメリット

私たちにとって well_being とは？ 自分で自分をコントロールすること」

提言 ①小学校からの「ネット活用」の 授業

②ネット以外に趣味を見つける

自分で自分を 「コントロール」 できる

⇒小さい頃からネットの付き合い方を学ぶ必要

【3班】「デジタル機器の制限」
 →デジタル技術を積極的に利用して社会に参加する事
 失敗から学ぶことの重要性 ←過度の制限
 家庭による制限の違い 制限によって決められる行動範囲
 「スマホ」＝「遊び」という認識
 デバイスの利点の提示
 ⇒デバイスの利点を生徒の視点から伝える
 制限の一般化に向けた高校生ならではの働きかけを

【4班】 「デジタルシティズンシップ」
 ① AI 活用 添削や校閲など、より良い使い方の教育
 フェイクニュース：情報の見分け方の教育
 ② 制限がかかりすぎ 大人メインのルール
 ③ 情報の入手方法 検索の方法
 提言 大人と一緒に議論をする場の設定
 時代に合わせたデジタル教育の必要性
 メディアリテラシー：情報の入手方法 自律・自立

第三部：グループ発表
 各グループともプレゼンテーションソフト（Google スライド）を活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）
 今年は久しぶりのリアルということでどのグループも内容が充実していてスライドとしてよくまとまった発表となりました。すぐにできる提言もたくさんありました。

講評：大阪私学教育情報化研究会 副会長 米田謙三 様
 今年はリアルで開催でしたが、大学生のファシリテーターのもと本当にいろいろな意見がここまで出てきて大変良かったと思います。リアルということで本当に活発に意見交換がされ（模造紙、ホワイトボード、付箋などの活用も含めて）、またどのグループも短い時間の中でしっかりと提言をまとめてくれました。今回のように、まとめ、発表する事はこれから増えてくるのだろうことを考えると本当に有意義だったと思います。

その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行くグループの選定投票を行い、またそのグループで代表者の選定投票を行い 江戸川学園取手高校が代表校に選出され、全体会で発表されました。

参加校：	文京学院大学女子高等学校 清泉女学院中学高等学校 江戸川学園取手高等学校 東京女子学園中学校高等学校 (順不同)
------	--

日 時：	2023年10月1日（日）12：30－17：00
場 所：	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
参加人数：	熟議参加生徒 22人 見学者・関係者 21人（教員・教育関係者・その他） 合計： 43人
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【グループ名：1】6名 文京学院大学女子高等学校3年女子、江戸川学園取手高等学校2年女子、江戸川学園取手高等学校2年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 OB 金子真志</p> <p>【グループ名：2】6名 文京学院大学女子高等学校3年女子、江戸川学園取手高等学校2年女子、江戸川学園取手高等学校1年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 上智大学 矢野莉央</p> <p>【グループ名：3】5名 清泉女学院中学高等学校2年女子、江戸川学園取手高等学校1年女子、江戸川学園取手高等学校1年男子、東京女子学園中学校高等学校2年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 慶応義塾大学 花岡吟音</p> <p>【グループ名：4】5名 江戸川学園取手高等学校1年男子、江戸川学園取手高等学校2年女子、江戸川学園取手高等学校2年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子、東京女子学園中学校高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 埼玉医科大学 飯塚みく</p>

4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
学校法人岩崎学園 情報セキュリティ大学院大学	会場、什器備品手配
株式会社 DeNA	講演、ノベルティ 他

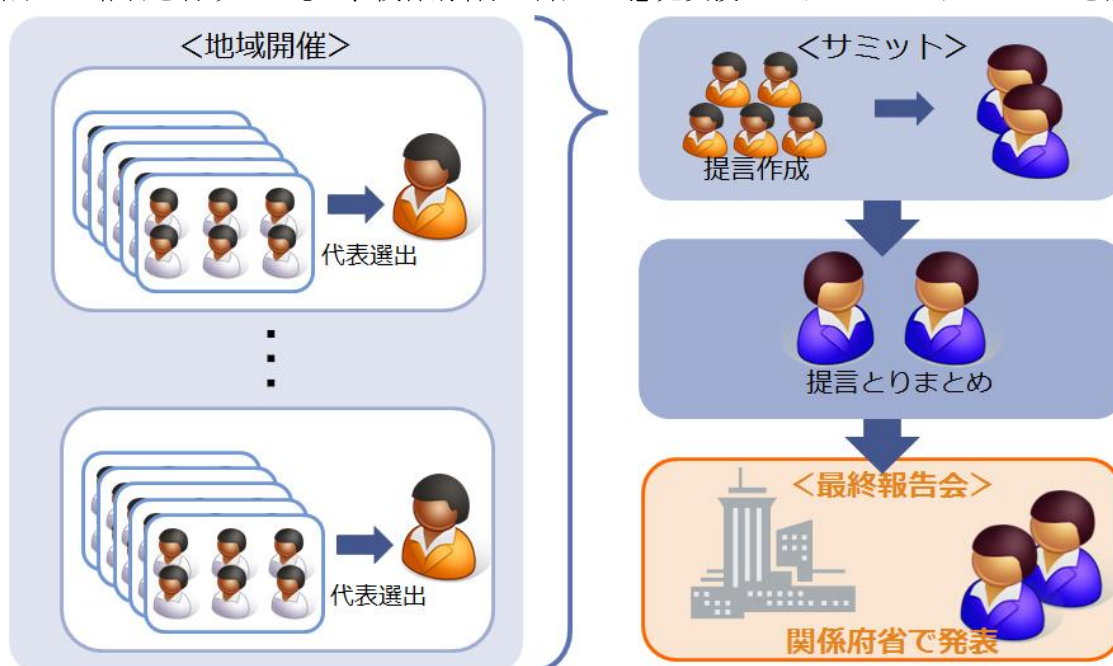
5. 高校生 ICT Conference 2023 サミット

高校生 ICT Conference 2023 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2023 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏る。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2023 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2023 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上